

## I-A-7

ラット肝に対する生薬：山梔子の薬理作用の形態学的検討 (1) 酸フォスファターゼ活性

伊原信夫，布野秀二，竹内弘子  
(関西医大・第1病理)

ガラクトサミン腹腔内投与によって引き起される、ICR系白内障ラットの激症型肝炎は生薬：山梔子(*Gardenia jasminoides Ellis*)の非中毒量の経口投与によって防止される。このような薬効に関連して、山梔子の肝に対する薬理作用を形態学的に解明するための一手段として、酸フォスファターゼの組織化学的検出を行った。

研究材料と方法：生後6~9カ月のJCLウィスターラットおよびICR系白内障ラット(♂,♀)。両系とも同一飼育条件。山梔子の50分間煎液(1~0.5gr生薬量/rat・回)を屠殺前、48時間目、24時間目の2回投与。屠殺後直ちに、酸フォスの光顕的・電顕的検出(Gomori改良法)を行なった。

観察結果：酸フォス。陽性顆粒の明瞭を減少がみられ、同時に毛細胆管の明瞭を拡大像がみられた。

考察：山梔子投与は肝における酵素活性の産生または発現を抑止するという機転と、他に毛細胆管を通ずるLysosomeの排出が促進されるという可能性も考えられる。

## I-A-8

高血圧ラットの動脈中膜における細胞外ライソソームに関する光顕的および電顕的研究

鈴木慶二，河原田ウメ子

(群大医療短大病理)

大根田玄寿

(群大第2病理)

両腎動脈を狭窄して高血圧となったラットの動脈病変を光顕的に観察すると、内膜や中膜への類線維素物質の沈着、内弾性板の融解、中膜筋障害などが見られ、ヒトの高血圧性脳出血の直接原因である動脈壊死に酷似している。電顕的に内膜や中膜に沈着した類線維素物質は線維素を主体とした血漿成分であった。中膜には、筋細胞の融解壊死や筋細胞々体の限局性壊死が観察された。中膜筋細胞の壊死部には大小の顆粒状壊死産物や小胞状ないし小管状壊死産物があり、胞体の限局性壊死によって萎縮した島状筋細胞の周囲には層状ないし網状に増加した基底膜様物質が見られ、この増加した基底膜間に顆粒状ないし小胞状壊死産物があった。

酸フォスファターゼ反応を行い電顕的に観察すると、内皮細胞、内膜細胞、好中球に反応産物の沈着が見られた。中膜においては筋細胞のライソソームに反応産物の沈着が見られ、さらに細胞外の大小の顆粒状壊死産物や小胞状ないし小管状壊死産物に反応産物の沈着が認められることが多かった。この酸フォスファターゼ反応の反応産物の沈着を示す壊死産物は細胞外に放出されたライソソームで、この細胞外ライソソームの周囲に組織融解像が見られた。したがってヒトの動脈壊死の特徴的病変である動脈壁の組織融解に、高血圧のための中膜筋細胞壊死に伴って細胞外に放出されたライソソームも関与していると考えられる。